

# 農家の養魚



**農家の収入と營養改善のために養魚は有利な副業です。その方法も簡単に、次の如く誰にでもできます。**

## △魚池の選定▽

養魚の成功を決定する、最も大切な要點は、適當な魚池（魚塢）を選ぶことです。

魚池にも多くの費用をかけた完全なものから、空地を利用した小型のもの等、種々あります。が、何れにしても次の諸條件をそなへる事が大切です。

(一) 魚池に水が一年中あるか、或いは短期間だけ缺水するものが良い。最も理想的なのは、(圖一)の如く河の側邊にこしらへた魚池で、このような池は、好む時に水を排出したり、引水したりする事ができるので、非常に便利です。

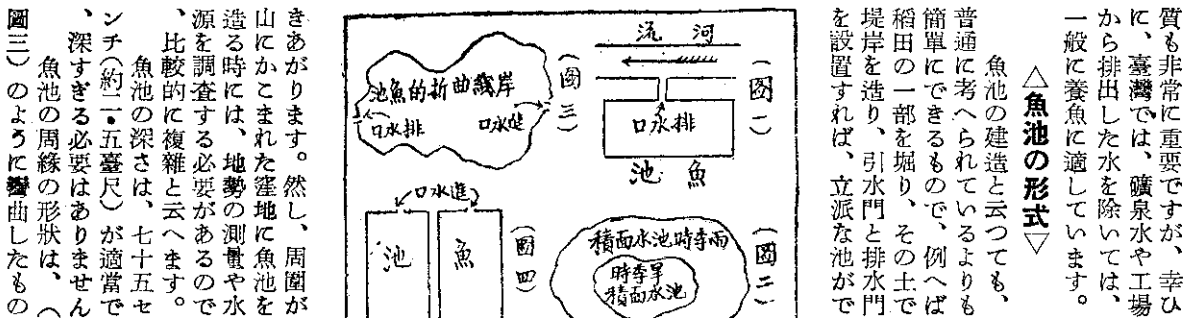
次に良いのは、(圖二)の如き「積水池」と呼ばれるもので、この種類の池は、周囲の土地が高く、池が低くなつてゐるので、一年を通じて水がある便利があります。然

し、この池は、排水引水が不便で、また、乾燥期の時には池の水量が減少する等の缺點があります。最後に、もつとも悪いのは水源の無い魚池で、このような池は乾燥期には池水が乾いてしまふので、一年のうち九ヶ月位しか養魚できません。

(二) 池水が氾濫しない事。この點は非常に重要で、もし池の位置が悪いと、大雨・洪水などで池水が氾濫（ハンラン）して、養魚を全部失う事があります。

(三) 池底が保水に適している事。もし、池底が沙土であると、保水力が無いので、何回も水を注入して補給せねばなりません。また、このような池は肥料の保留力が無いので、養魚の成績も悪いものです。故に、このような池は黏土で底を補強する必要があります。

(四) 池底が平坦である事。池底が平坦でないといふ事は、排水する時や、網で捕魚する時に不便になります。また池底の傾斜は、排水門の方に少し傾いた方が、容易に排水ができます。



## △魚池の形式▽

魚池の建造と云つても、普通に考へられてゐるよりも簡単にできるもので、例へば稻田の一部を掘り、その土で堤岸を造り、引水門と排水門を設置すれば、立派な池ができます。

より、(圖四)の如き長方形のもの、捕魚に便利です。また、曳網を使用する時には、魚池の寬さが網の長さより短い方が捕魚に便利です。

次に重要なのは水門で、(圖四)の如く魚池の兩側に相對する様に、排水門と引水門とを設けます。水門はレンガ（磚）で造り、中央に木板を挿入して、開閉ができるようにし、更に、鐵網か竹柵で保護をすれば、排水・引水の時に魚が流失しません。但し、魚池が小さい、もつと水門を簡単にしたい時には、鐵管・竹筒などで代用して排水引水をする事ができます。

## △魚の種類と放魚數▽

臺灣の養殖魚類は大別して鹹水（鹽水）魚と淡水魚に分けられます。鹹水魚としては、虱目魚・烏魚などがあり、淡水魚に屬するものには、鯉・鯽・草魚・鱧魚・吳郭魚などがあります。然し、農村の魚池は大部分が淡水池なので、ここでは淡水魚の養殖のみを述べる事にします。

同じ魚池に數種の魚を混養する方法は混殖法と云つて有利なものです。臺灣で混養できる魚は、草魚・大頭・鱧・黑鱧・花鱧とも呼ぶ鱧・鯉などです。この四種類

魚類別	水層	餌料
草魚	各層	水草、陸草、米糠、人畜糞
大頭	上層	浮游生物、米糠
鱧	下層	草、その他の各種餌料

魚を放養する標準の數は、面積一分（約三百坪）の池に、五公分—八公分の小魚を、草魚約一〇〇匹、鱧魚約七五匹、大頭魚約七五匹、鯉約一五〇匹を放養します。然し、このうち、草魚・大頭・鱧魚などの魚苗は香港から輸入して來たもので、價格も相當に高いので、初めて養魚を行ふ農家では、一種のみを養魚するか、或は鯉と吳郭魚の二種を混養するようにしたら良いと思ひます。鯉のみを養殖する時には、五公分の魚苗を五百—六百放養でき、吳郭魚は三公分の大きき者を六百—七百放養できます。なほ、吳郭魚と鱧の魚苗は、各地の個人魚池で賣つてゐるほか、各縣市の水産試験所や農林改良場、漁會養魚場でも安く賣つてゐます。次回には、實際の養魚技術について述べませう。



# 稲の三回中耕除草

## 誰にても水稲増収のてきる方法



農業方面  
で今年の夏に  
一番困つた問  
題は、全省各  
地に降雨の少かつた事で、特  
に中北部では乾燥が甚しく、  
一部の地方では飲料水にも不  
足した位です。このため、中  
北部の灌漑不便な地區では、  
田植え(挿秧)さへ困難にな  
り、たとへ田植えが出来た地  
區でも、缺水のために水稲の  
生育が悪く、稲苗が黄色に變  
じた地區も多くあります。

このままでは水稲の生育  
は悪くなるばかりで、二期作  
の収量も大いに減少する恐れ  
があります。

では、この旱魃(ひでり  
)による減産を如何にしたら  
軽減できるでせうか。もちろ  
ん、今後とも降雨が多くなれ  
ば、稲の減産を免れる事がで  
きますが、雨ばかりに頼る事  
は危険です。しかも、旱魃や  
、その他の災害は今年ばかり  
でなく、何時おそつて来るか  
解りませんから、技術的に研  
究して、減産を予防する事が  
特に大切だと思ひます。

そこで、これに對して、  
農林廳が提唱しているのは、  
「三回中耕除草」の方法を行

ふ事です。こ  
れは實に簡單  
で、今まで普  
通に行つてい  
た二回の中耕

除草を、三回に増加するだけ  
です。しかも、この方法によ  
り、災害を受けた地區では減  
産を予防でき、災害の無かつ  
た地區でも平均的に收穫を増  
加できますから、今後、全省  
的に大いに實行すべき方法と  
思ひます。

然し、中耕除草は習慣的  
に本省では二回だけで、三回  
中耕除草の効果を疑ふ農民も  
多いと思ひますので、はつき  
り讀者に理解してもらうため  
、次に試験の結果を表にして  
みませう。

中耕除草回數	糙米収量 (公頃/公斤)
無中耕除草	二、三〇〇
一回施行	二、六三六
二回施行	二、六二六
三回施行	二、七〇一

この表で解る事は、三回  
の中耕除草は二回の場合より  
も、毎公頃(約一甲)につい  
て糙米を七十五公斤も増産で  
きる事で、全省の田地がこの  
方法で耕作されたら、實に三  
四二六八トンの増収になるの  
です。

「三回中耕除草」の技術  
は非常に簡單で誰にでも出來

る事ですから、残された重要  
な問題は、如何にしてこれを  
宣傳し農民の間に徹底させる  
かといふ事です。このために  
は、各農會や小組長の熱心な  
協力と、農民の自發的な實行  
が望ましいと思ひます。また  
、これに對する奨励として、  
農林廳では中耕除草に熱心な  
村長や小組長を表彰する事に  
し、熱心に中耕除草を行ふ農  
家に對しても、種々の優先權  
を與へる事にしています。現  
在の時期は、ちようど第三回  
中耕除草に當りますから、全  
省の農家が早くこれを實行す  
ることを切望します。

馬鈴薯の收穫は必ず晴天の  
日に行ふべきで、雨天また  
は雨後に收穫したものは、  
腐敗しやすい。

開墾地は一般に酸性が強く  
、燐酸に缺乏しているので  
、燐酸肥料の施肥が大切で  
ある。

稲の第一次分蘗は殆んどが  
有効で、第二次分蘗の遅い  
ものは時に無効となり、第  
三次分蘗は殆んどが無効で  
ある。

水田耕起に使ふ役牛は、牡  
牛より牝牛の方が良い。  
糞尿を水田に施す場合には  
、水を落してから、糞尿を  
施し、二日ぐらいたつてか  
ら水を入れる。

### 養豚

#### 豆餅は飼料として高いか

最近、豆餅は一般に値上げとなつて、美  
援の豆餅でさへ、一個八十三円で、今迄より十八元も高く  
なりました。そこで、豆餅では値段が高すぎるから、糙米  
で豚を飼育すれば良いと提議する人がありますが、養豚飼  
料として、どちらが實際に經濟的でせうか。次の表を見る  
と、黄豆餅は糙米よりも僅に値段が高いが、粗蛋白質の含  
有量を比較すると、豆餅は糙米の約六倍近くあり、營養が  
ずつと豊富です。故にもし、これを粗蛋白質の價格で計算  
すると、糙米が每公斤二四  
・六五元なのに比して豆餅  
は僅に七・二八元ですから、  
飼料として豆餅の方が遙か  
に經濟的な事が解ります。

類 別	粗蛋白質 每公斤	
	實 含 量	價 格
糙 米	八・六%	二・二二元
黄 豆 餅	四五・二%	三・二九元

### 更年期の常識

婦人の一生を大きく分けると、次の如き五つの時期に分  
ける事ができます。一、小女期、青春期、成熟期、更年期、老年  
期。このうちの更年期と云ふのは、婦人の月經が停止する時  
期に當り、生殖腺や身體上に種々の變化が起きるので、婦人  
にとつては青春期と共に重要な時期と云へます。婦人が更年  
期になると、まず月經が不順となり、しばらくすると月經が  
停止しますが、これ  
と同時に、熱感・逆  
上(のぼせ)・興奮  
(コワフン)・頭痛・  
心悸亢進(動悸)を  
發生する人も多くあ  
ります。然し、この  
時期に發生する頭痛  
や興奮も、しばらく  
すれば治るものです  
。この時期に特に注意すべき事は、「更年期出血」と云つて  
、月經以外の不正出血をする事がありますが、これは子宮癌  
の出血と、よく似ているので、すぐに醫者の診察を受けるべ  
きです。この時期には子宮痛を發生しやすいの  
で特に注意が必要なわけです。その他の注意と  
しては、食物は刺戟物、酒類等避け、便通を  
良くしておく事が大切です。

